

教員「ラム」

『我が家の夏の便り』

准教授 木村 弘子

「こんにちは、今年の夏も暑いですね。皆さんお変わりないですか」と叔父や叔母、最近はいとこから電話が鳴り響く季節となりました。

父は六人きょうだい、母は七人きょうだいと、一人っ子の私には多くの親戚がいます。

鹿児島県・宮崎県の各地域に住む親戚に、母は夏になるとお中元に兵庫県産のそうめんを毎年欠かさず送っていました。その度に、電話の音が鳴ると母の笑顔は咲き誇ります。

叔父や叔母も高齢となり、今では我が家の夏の便りは安否確認、健康確認となっています。それでも、電話の向こうの声に心弾ませる認知症の母を見ると、今年の夏も兵庫県産のそうめんを送らなくてはと思うのです。

みなさんも少し遠ざかっている会いたい人に夏の便りを送ってみませんか。蝉と風鈴の合唱に加えて電話の音がきくと鳴りますよ。



授業紹介「子どもと言葉」

准教授 尾崎 綾子

保育士や幼稚園教諭を目指す学生にとって、言葉について学ぶことは大切です。乳幼児期の言葉につながる温かいコミュニケーションの必要性や実際の保育現場での言葉を育む遊びやかかわり、その基本となる専門的な知識を学んでいます。

実際に手遊びや絵本の読み聞かせをしたり、紙芝居を見せ合ったりしながら、言葉を育むための保育に必要な技術や援助方法も身に付けていきます。

前期授業の後半では、グループに分かれてテーマを考え、自分たちで作ったペープサー

トを演じ合いました。見た学生からは、「工夫があり楽しかった」との感想がありました。

